2025年度　　長寿の里　事業報告

自令和7年4月 1日
至令和8年3月31日

2025年度　長寿の里　事業報告

年間数値目標と実績（利用率）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6　実績	97.4	96.4	98.9	98.0	96.9	97.1	96.7	97.2	97.4	96.9	97.8	96.5	**97.3**
	R7　目標	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	**96.8**
	R7　実績	96.6	97.1	96.7	96.4	96.1	97.0	98.3	96.9	97.5	96.5	97.9	98.0	**97.1**
短期	R6　実績	107.5	104.7	104.6	103.6	104.7	104.4	100.5	102.7	88.3	99.0	100.5	103.4	**102.0**
	R7　目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
	R7　実績	108.5	105.4	104.7	100.8	105.0	104.5	100.0	99.3	101.6	110.5	103.6	98.2	**103.5**
通所	R6　実績	96.8	97.0	96.1	96.3	96.1	96.8	94.6	95.1	94.0	94.8	96.0	93.8	**95.6**
	R7　目標	95.8	95.9	95.9	95.7	95.8	95.8	95.8	95.8	95.7	95.7	95.7	95.8	**95.8**
	R7　実績	94.3	96.1	97.5	97.5	96.4	98.3	95.8	97.0	97.1	96.0	96.2	97.7	**96.7**
ケアハウス	R6　実績	98.0	97.9	99.6	99.4	96.5	98.2	98.1	95.4	97.7	95.5	95.1	97.7	**97.4**
	R7　目標	98.0	98.3	98.3	97.8	98.0	98.0	98.0	98.0	97.8	97.8	98.0	98.0	**98.0**
	R7　実績	98.4	98.3	99.1	98.6	98.9	98.1	94.6	94.7	93.5	96.5	99.1	99.5	**97.4**
サ高住	R6　実績	97.2	96.4	92.1	88.3	87.1	88.1	92.0	95.1	100.0	100.0	99.9	98.2	**94.5**
	R7　目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	**95.0**
	R7　実績	99.2	96.6	91.6	86.2	93.2	96.5	93.7	88.8	92.5	91.0	92.0	97.0	**93.2**
有料	R6　実績	92.7	95.8	92.6	95.1	95.8	97.2	98.1	98.6	94.3	94.0	97.6	98.3	**95.8**
	R7　目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	**95.0**
	R7　実績	95.3	96.4	95.8	97.3	89.1	88.6	98.3	95.4	90.7	89.8	97.2	88.6	**93.5**
訪問（件数）	R6　実績	4,461	4,691	4,416	4,611	4,666	4,698	4,971	4,840	5,058	5,062	4,741	5,229	**4,787**
	R7　目標	4,379	4,519	4,387	4,527	4,531	4,399	4,539	4,407	4,547	4,551	4,147	4,559	**4,458**
	R7　実績	5,118	5,237	4,956	4,985	4,905	4,849	5,207	4,918	5,014	4,909	4,794	4,893	**4,982**
居宅（件数）	R6　実績	46.0	47.0	45.0	44.0	45.0	47.0	44.0	46.0	47.0	45.0	45.0	45.0	**45.5**
	R7　目標	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	**40.0**
	R7　実績	64.0	66.0	62.0	65.0	69.0	69.0	68.0	66.0	66.0	66.0	69.0	71.0	**66.8**
GH	R6　実績	98.5	98.6	100.0	96.6	96.6	100.0	100.0	99.6	93.9	93.8	96.4	92.5	**97.2**
	R7　目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	**98.0**
	R7　実績	100.0	95.2	95.7	100.0	97.6	95.0	98.9	99.3	96.1	94.3	91.1	95.5	**96.6**
小多機	R6　実績	68.5	77.1	72.9	87.8	84.5	84.3	79.8	77.3	76.8	74.5	71.3	82.4	**78.1**
	R7　目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	**80.0**
	R7　実績	68.0	76.0	76.0	76.0	92.0	88.0	88.0	80.0	80.0	80.0	88.0	92.0	**82.0**

2025年度　鎌ヶ谷翔裕園　事業報告

施設基本方針

Make happiness
鎌ヶ谷翔裕園に集うお客様と職員がいつも幸せでいること

施設年度目標

①しっかりと差別化を図り、選ばれる施設となる。
②安定した運営と適切な経営
③鎌ヶ谷市地域への地域貢献活動

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】　年間平均稼働率　97.7%（従来）　98.7%（ユニット）
年間目標の稼働率としては達成されたが、入退院での影響が大きく講じた１年でもあった。年間空床数は空床0日を意識し取り組んだため、前年度より約半数減少した成果に繋がり、同時に収益改善プログラムゴールド認定獲得への起因となることができた。さらに今期は科学的介護推進体制加算、生産性向上推進体制加算を新たに取得、経口維持加算算定者の増員をし収益増に寄与した。
ICT機器の導入後、少しずつ円滑に運用されるようになり、明らかな業務改善の成果としては至らないが、機器を活かした環境創りを行っている。
【短期入所】　年間平均稼働率　98.4%
当期の短期入所においては、特養の影響を受けやすい中で空床の最小化を意識した受け入れ調整や関係部署との連携強化により安定した稼働確保に取り組んだ。7月には相談員の変更があったものの、大きな混乱なく体制の維持ができたが、ベッドコントロールに不慣れで特養空床利用が上手く活用できなかった事などから、目標稼働は未達の結果となった。
相談員変更後は入居担当者との連携にも良い変化が生じ、入居待機者に関する情報共有がスムーズになり特養の入退去時空床期間の短縮に貢献することが出来た。営業活動においても新規契約件数が前年比で約1.5倍になるなど、積極的な活動が結果に繋がり、登録者を増やす事が出来たため、キャンセル時の空床補填についても選択肢を増やす事に繋がった。
良い結果が得られた取り組みについては新年度も継続し、稼働の安定化に向けて毎月の実利用人数80名以上を目標とする。
【通所】　年間平均稼働率　95.3%（定員35名）
・定期的な外部営業と内部での調整により年度開始時から秋ごろまでは目標稼働を超え安定稼働を維持していたが、冬季においては中止者や体調不良者が急増し、目標数に至らずも通年では目標稼働を到達する着地となった。
・アンケートやヒアリングなどの調査によりアクティビティ活動やイベント開催における企画の見直しを行い、お客様のニーズの充足や満足度向上に起因出来るよう、様々なお客様が楽しんで参加頂ける活動工夫を実践した。
・認知症加算を廃止し、新たに科学的介護推進体制、個別機能訓練など加算取得を実施し加算体制の整備を実施している。
【居宅】　年間平均稼働　66.8件
・今期、鎌ケ谷・かしわの居宅を統合、法人内の居宅ケアマネが連携強化しプランの整備や精度が向上、集中減算も回避出来る体制構築がされている。自法人内のサービスを中心に包括的な支援に向け各事業との連携強化している。
【全体総括】
・特養の従来・ユニット共に安定的な稼働により目標達成し、デイサービスにおいては冬季の中止者や体調不良が重なり、目標稼働数に届かないこともあったが、上期の稼働安定もあり目標達成となる。
・ショートステイについては、相談員交代もある中で大きな混乱なく体制維持が出来たものの、次年度においても相談員が変更となるため、現場やお客様に大きな混乱を生まない様にしつつ稼働の安定化に向けて取り組む。
・特養においては、aamsユニット40台に加え従来に新たに90台追加した為、特養全床に導入が完了。心身状態の把握や見守り業務の改善を推進。また、ユニットにインカムを10台・医務1台・事務所1台導入し、従来に比べ円滑な情報共有が可能となったことやユニット個浴にリフト式シャワーキャリーを導入することで、2名体制であった機械浴を1名体制で対応可能となり業務効率につながった。
・令和7年度、新たに特定技能3名を仲間に迎え、国際人財は計9名(うち特定技能生6名)の体制となる。育成カリキュラムや次世代リーダー選出に向けて、研修参加やフリーランチを活用し国際人財の母国料理を振る舞い、国際交流を推進した。
・地域活動では、障害分野において有償ボランティア活動の受け入れや、近隣保育園との交流、自治会と共に地域合同防災訓練の開催、交流スペース開放に伴うボランティア活動場所の提供から、施設内での演奏会などに繋げる事が出来た。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6　実績	99.4	98.3	99.7	98.3	97.8	98.1	96.2	94.4	97.5	97.4	97.5	94.4	**97.4**
	R7　目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	**96.0**
	R7　実績	98.0	97.0	98.2	98.8	98.1	97.6	97.7	97.0	99.4	99.7	99.3	97.7	**98.2**
短期	R6　実績	105.6	105.6	101.2	101.8	102.0	102.1	100.0	103.4	87.3	93.9	97.7	100.6	**100.1**
	R7　目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
	R7　実績	100.0	100.8	100.0	96.2	98.0	96.6	101.2	94.9	99.0	97.1	101.2	95.8	**98.4**
通所(鎌)	R6　実績	89.9	91.8	85.4	88.6	87.1	88.5	82.8	89.0	87.8	94.4	96.1	96.2	**89.8**
	R7　目標	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	**92.0**
	R7　実績	98.7	99.6	99.0	98.0	97.8	96.6	94.1	95.9	90.5	88.1	90.0	95.8	**95.3**
居宅（件数）	R6　実績	46	47	45	44	45	47	44	46	47	45	45	45	**45.5**
	R7　目標	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	**40.0**
	R7　実績	64	66	62	65	69	69	68	66	66	66	69	71	**66.8**

2025年度　行徳翔裕園　事業報告

施設基本方針

【Legacy ＆ Future】
～多様性を大切に未来へつなぐ幸せの駅～

施設年度目標

「伝統と文化の尊重」Legacy ＆ Futureをテーマに、お客様・ご家族・地域の皆様とともに、多様な文化や価値観を尊重した取り組みを推進しました。各課の企画する行事や日々のケアに反映させることで、多世代などの交流機会やQOL向上につなげることもできました。また、職員一人ひとりが理念の理解を深める機会をもち、個々の強みを意識した実践を行うことで、やりがいや専門性の向上につなげることができました。地域福祉の向上と、安心・安全なサービス提供体制の構築に取り組みました。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【入居】
目標稼働率：98.0%　実稼働：97.4%　目標比：-0.6%　前年比：±0.0%
目標稼働未達の要因として、3Qに入院が多発したことにより一時的に空床が増加、稼働が低下したことが挙げられます。退院調整の迅速化や、日常的な体調管理および早期受診対応など、入院リスク低減に向け取り組みました。また、転倒による骨折入院の発生を踏まえ、ケアの内容や居室環境の見直し、転倒防止に向けた対応強化を実施しています。
入退居に伴う空床は年間11件発生し、うち6件は老健・医療機関・他施設からの入居であり、入居までの調整に平均7日を要し、その他5件は自費サービス利用からの切り替えであり、空床期間0日での入居対応が可能であったため、全体平均空床日数は4日となっています。在宅以外からの入居における調整期間が長期化する傾向にあるため、事前の情報収集や関係機関との連携を強化し、円滑な受け入れ体制を構築してまいります。

【通所】
目標稼働率：98.0%　実稼働：96.5%　目標比：-1.5%　前年比：-0.1%
目標稼働未達の要因として、昨年度末から1Qにかけての新型コロナウイルス発生の影響、および登録者数が100名を下回ったことにより、稼働が大きく低下したことが挙げられます。2Q以降は新規登録者の獲得および追加利用の促進に取り組んだことで、稼働は徐々に回復し、月次で未達はあるものの安定した稼働へと改善しています。また、登録者数についても100名以上を維持できる体制となっています。
サービス面では、アクティビティの充実や個別対応の強化に加え、特別浴槽の入れ替えにより重介護者の受け入れ体制を強化しました。あわせて、ケアマネジャーへの情報提供や見学対応の充実により、新規登録者の獲得につなげています。
今後は、長期入院者の一旦解約などの提案し曜日ごとの登録人数バランスを整え、登録者100名以上を維持し、加えて週複数回利用の促進と予定外休み者への振り替えや追加利用の提案により、稼働を安定化してまいります。

【全体総括】
① 差別化・付加価値の創出
新たにGG式口腔ケアマニュアルの実践により、職員間での共有と統一したケアの提供を進めました。口腔ケアマニュアルは初めての取り組みでしたが、Gold認定を取得することができ、職員の意識向上とやりがいのにもつながりました。
また、基本方針である「伝統と文化の尊重」をコンセプトとした各課の企画を実施し、文化的要素を取り入れ多様性を尊重した行事やアクティビティを提供しました。企画内容については、進捗確認と共有を行い実施内容の充実化に繋げました。
② 組織力の強化
ES調査結果を基に振り返りと改善に取り組み、職員休憩室や更衣室の整備など、働きやすい環境づくりを進めました。
また、国際人材を含む人材の受け入れにおいては、OJT体制を強化し、メンター・技能指導・生活支援担当が連携して情報共有を行うことで、安心して働ける環境へ整備しています。
さらに、業務面や環境面、その他でも一人ひとりの課題の把握と改善に取り組むことで、離職防止と職場定着向けて、定期的な個別面談を実施しました。
③ 採用力の強化
介護職員の確保に向けて継続的な求人活動を行いましたが、退職者の補充には至らない状況がありました。そのため、派遣職員やスポットワークからの直接雇用への切り替えや、リファラル採用の推進を改めて全職員へ周知しています。また、面接力と応募者対応力の向上を目的とした、ロールプレイ形式による面接実践研修を実施しています。
④ 生産性の向上
ICT導入の検討・選定を進め、インカムやLINEWORKSの活用により、情報共有の迅速化と業務の重複削減に加え、職員応援体制の充実化に取り組みました。さらに、AI記録ツールnomanの導入により、会議や面談記録にかかる時間の大幅な削減が可能となりました。また、デイサービスにおいては、補助金を活用した特別浴槽入れ替えにより入浴支援の効率化と重介護者の受け入れ枠が広がり、営業時に積極的に発信しています。
⑤ 収益力の向上
ケアハウス・デイサービスともにLIFEの算定を開始し、フィードバックを活用した個別機能訓練の質の向上に取り組みました。また、業務分担の見直しと各課の協力体制の強化により、属人化を防ぎながら効率的に業務を行うことや、業務の集中する時間を確認してシフト自体の時間を変更するなど、業務の平坦化に向けて定期的な確認と改善策を実施し、時間外労働の分散化や低減につなげました。
⑥ 地域貢献
パトロールや地域行事への協力を通じ、地域関係強化を図りました。また、次年度の地域合同防災訓練の実施予定や連携体制について、自治会との意見交換を行っています。地域交流では園児さんとの定期的な交流の他、小中学校の職場体験や専門学校などからの受け入れを積極的に行い、多世代交流と福祉に触れ理解していただく機会をつくりました。地域向けたイベントでは夏休みDIY教室やパン作り、歯磨き教室、非常食試食会などを開催し相談ブースを設置しています。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
軽費	R6　実績	98.0	97.9	99.6	99.4	96.5	98.2	98.1	95.4	97.7	95.5	95.1	97.7	**97.4**
	R7　目標	98.0	98.3	98.3	97.8	98.0	98.0	98.0	98.0	97.8	97.8	98.0	98.0	**98.0**
	R7　実績	98.4	98.3	99.1	98.6	98.9	98.1	94.6	94.7	93.5	96.5	99.1	99.5	**97.4**
通所	R6　実績	99.9	99.9	99.9	98.4	98.6	99.9	97.7	95.1	94.9	92.7	94.8	87.3	**96.6**
	R7　目標	98.2	98.5	98.5	97.6	98.0	98.0	98.0	98.0	97.6	97.8	97.8	98.0	**98.0**
	R7　実績	85.6	91.1	96.0	96.9	95.2	99.9	99.9	99.1	99.9	99.9	97.9	97.0	**96.5**

2025年度 いちかわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

more connect & grow up
～もっと繋がる！そして成長する～

施設年度目標

１．基本に戻り成長する
２．魅力ある組織活動
３．もっと繋がる喜び

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】

管理課　相談部門

目標稼働率97.0%に対し年間平均98.1%と目標を達成しました。退去者17名、入院者25名の中で入院者数は減少し、特に1か月以上の長期入院者は昨年度9名から4名へと大きく減少しました。この要因として、各部門連携による体調不良の早期発見と、ご家族への意向確認の徹底により、看取りも含めた支援方針を共有できたことが挙げられます。また、長期入院が見込まれるケースには早期に退去提案を行い、入院日数の短縮にも繋げました。入院者減少に向けては、感染症対策・事故防止に加え、「GG式口腔ケアプログラム」を推進し、誤嚥性肺炎による入院減少に繋げました。さらに、5月より個別機能訓練加算を取得し、ADLの維持・向上にも取り組みました。営業面では営業会議の継続により各事業所との関係強化を図り、継続的な入居相談・申込獲得および空床時の迅速な入居調整に繋げました。また、地域との関係強化として、封筒広告やコミュニティバス広告、子ども食堂や認知症啓発イベントへの参加、認知症カフェ開催や出張授業などを通じ、接点拡大と認知度向上を図りました。下半期からはLIFE導入準備を進め、次年度の加算取得に向けた体制整備を行いました。今後も取り組みを継続し、運営の安定化とサービスの質向上に繋げていきます。

介護課

お客様の夢や希望を実現する「夢企画」を実施し、ご家族からの情報収集も含め一人ひとりの想いに寄り添った外出・外食などの個別アクティビティを行い、満足度向上を図りました。「生きがいとやりがいの創出」としてアクセサリー制作とバザー出店を行い、「高齢者介護研究会」にて最優秀賞を受賞しました。今後も取り組みを発展させていきます。また、認知症啓発イベントや子ども食堂、認知症カフェへの参加を通じ、地域との交流機会を創出しました。「GG式ケアプログラム」では口腔ケアの取り組みが評価されGOLD認定を受賞し、訪問歯科との連携や口腔体操により口腔衛生の維持・向上に努めました。さらに、ユニ・チャームと連携したオムツ使用の適正化によりコスト削減と介助技術向上を図りました。国際人材は新たに7名を受け入れ計9名体制となり、多様な人材の活躍を通じ組織の柔軟性と対応力向上に繋げました。今後も定着支援を強化し、組織力の底上げを行います。

管理課　栄養部門

栄養ケアの充実に向けて日々の摂取状況の把握と多職種連携を強化し、個々の状態に応じた支援を行いました。体調変化に応じた食形態の調整や栄養補助の工夫に加え、「GG式口腔ケアプログラム」を活用し、口腔体操や口腔内ケアを強化することで、安全な経口摂取の維持・向上に繋げました。また、食事の楽しみを重視し、フロアごとの合同バイキング（おでん屋台・手打ちうどん・スイーツ等）を実施し、交流機会の創出と満足度向上に繋げました。さらに、賀寿のお祝いを計24組実施し、ご本人・ご家族に喜ばれる機会となりました。地域との関わりは課題が残るものの、夏祭りや翔裕園の日には地域の方々にも来園いただき、季節の食事提供を通じ一定の交流機会を創出しました。今後も、食事を通じた健康支援と生活の質向上を軸に、多職種連携を強化しながら、お客様一人ひとりに寄り添った栄養ケアを推進します。また、地域との関わりを深め、食を通じた交流機会を広げ、地域に開かれた施設づくりに取り組みます。

管理課　医務部門

嘱託医および精神科・皮膚科専門医との連携強化と多職種連携により、早期発見・早期対応を徹底しました。その結果、年間を通して入院者数の減少に繋がりました。5月より個別機能訓練を算定し、ADL維持・低下予防に取り組むとともに「GG式口腔ケア・認知症ケア・転倒予防ケア」を活用し、重度化予防に努めました。人員も安定し、継続的なケア提供ができ、感染症対策では大きな発生はなく、体制強化の成果が見られました。看取りケアでは、ご家族への意向確認や嘱託医と連携し、支援体制構築を進めました。今後も健康状態の把握を徹底し、入院抑制と看取りケア充実に取り組みます。

【全体総括】

令和7年度は、各部門が連携しながら取り組みを推進した結果、稼働率の安定とサービスの質の向上を両立することができました。特に入院者数の減少や入院期間の短縮においては、早期発見・早期対応の徹底、ご家族との意向確認、多職種連携の強化が大きく寄与し、安定した施設運営に繋がりました。また、「GG式ケアプログラム」の活用や個別機能訓練の推進により、口腔機能の維持や重度化予防に加え、誤嚥性肺炎の予防など具体的な成果にも繋がりました。更に介護課を中心とした夢企画や生きがいづくり、栄養部門における食の充実など、お客様の生活の質の向上に直結する取り組みも着実に進めました。営業面および地域連携においては、関係機関との信頼関係構築が進み、安定した入居相談の確保に繋がるとともに、地域イベントや広報活動を通じて施設の認知度向上と地域との関係強化を図りました。人材面では国際人材の受け入れや定着支援を進め、多様な人材が活躍できる組織づくりに取り組むことで、組織全体の柔軟性と対応力の向上にも繋がっています。地域との関係づくりや各取り組みについては、今後さらに充実させていきたいと考えています。今後も、これまでの取り組みを基盤としながら、多職種連携の更なる強化とサービスの質の向上を図るとともに、地域に開かれた施設運営を推進し、持続的で安定した経営基盤の確立に努めてまいります。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6　実績	97.6	95.3	98.7	98.5	96.9	95.5	97.4	97.3	98.3	98.2	98.4	99.0	**97.6**
	R7　目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	**97.0**
	R7　実績	96.1	97.6	99.5	97.8	96.6	98.4	99.2	99.4	99.5	96.9	98.7	97.7	**98.1**

2025年度　かしわ翔裕園　事業報告

施設基本方針

NEXT STAGE
～進化し全ての満足度を向上～

施設年度目標

①人材の確保と育成
②サービスの質の向上
③地域との連携

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【サービス付き高齢者向け住宅】（目標95%　対目標比-1.8%　対前年比-1.3%）

・年度を通して9名の退去者が発生。特に第二四半期に発生した空室をすぐに入居に繋げることが出来なかった点と第四四半期に入院者が重なった点が、目標稼働率にあと一歩届かなかった要因と考えられる。

・人員が足りない時期でも安定したアクティビティ活動が行えている。また、入退去によるお客様の入れ替わりからアクティビティ活動の出来る幅が広がり、次年度に向けて園芸や手芸などのクラブ活動をイメージしながら行うことができた。

【住宅型有料老人ホーム】（目標95%　対目標比-1.5%　対前年比-2.3%）

・第二・第四四半期の入退去で空室期間が空いてしまい、目標稼働率を達成できなかった。長期入院者がいたことや、夫婦部屋のご主人ご逝去による空床をすぐに埋めることができなかったことが要因と考えられる。

・昨年度にエレベーター開通したことをきっかけに、毎週日曜恒例のカラオケを合同で行うことができ、お客様がフロアを越えて交流する機会を設けることができた。

【通所】（目標98%　対目標比+1.6%　対前年比-0.3%）

・毎月の外部営業、アクティビティやイベント等を工夫し内部営業を強化することで、新規のお客様が獲得できており、曜日登録者は上限となっている。また、キャンセル待ちや突発的なキャンセル分で追加利用をして頂くことで高稼働率を維持することができ、年間を通じて目標達成となった。

・アクティビティ用品の収納スペースを改善し、出し入れしやすいように工夫したことでお客様自身で準備から片付けまで出来る『自己完結アクティビティ』を提供することができた。

【訪問介護】（目標4,362件　対目標比+524件　対前年比+196件）

・空室期間が空いたことや重介護度の退去者が出た影響もあったが、状態変化に対して素早く区分変更の依頼を行い、追加援助に繋げることによって目標訪問件数を達成することが出来た。

・組織体制については、直接雇用の職員が増えて派遣がゼロになり、共通認識のもとでお客様にサービスを届けることが出来てきている。次年度は更に質の向上を目指し、グループの理念浸透や各種研修などに力を入れていくとともに、サ責4名体制での訪問介護チームとして一丸となり取り組む必要がある。

・現場リーダー同士の異動を含めて職員のフロア異動や、それに伴って相互で欠勤フォローを行うことができた。結果的に、両フロア対応可能な職員を6名に増やすことが出来た。

【全体総括】

昨年度のエレベーター開通から気兼ねなく部署ごとに交流する機会が一段と増え、かしわ翔裕園全体で取り組むワンチームの意識向上を行うことができ、ES調査で念願のグレカンゾーンを達成することができた。デイサービスにおいては、環境作りから整備した自己完結アクティビティの実現や、機能訓練による自立支援もお客様から好評で年間を通して高稼働となった。入居部門においては、長期入院者が重なったことや夫婦部屋の空きを素早く埋めることができず稼働率が低迷したタイミングがあり、入居判定チームの体制作りを含めて退居後の空床期間短縮が次年度の課題として残った。入居者紹介先においては、年度を通して直接応募や地域居宅、病院からの紹介が増えたことで、紹介会社を利用して入居した方は2名と昨年度よりも減らすことができた。脱特養転居については経済面を理由に2名の転居で留まっており、住み慣れた場所で最期まで暮らしてほしいというご家族の希望が多く今年度は4名の方を施設で看取り対応を行っている。全体イベント時以外でも合同アクティビティや不定期でのクラブ活動（園芸や稲作、手芸など）を行うことが出来た。外部訪問においてはR7年度の月平均目標300件に対して月平均376件と大幅に件数を増やしており、次年度の外部訪問拡大に向けて着実に進んでいる。さらに、次年度は入居部門のバルコニー活用をブラッシュアップする他に、デイサービスを中心に畑の一部を活用して野菜の収穫を行い、お客様の楽しみを増やす取り組みを行っていく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サ高住	R6　実績	97.2	96.4	92.1	88.3	87.1	88.1	92.0	95.1	100.0	100.0	99.9	98.2	**94.5**
	R7　目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	**95.0**
	R7　実績	99.2	96.6	91.6	86.2	93.2	96.5	93.7	88.8	92.5	91.0	92.0	97.0	**93.2**
有料	R6　実績	92.7	95.8	92.6	95.1	95.8	97.2	98.1	98.6	94.3	94.0	97.6	98.3	**95.8**
	R7　目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	**95.0**
	R7　実績	95.3	96.4	95.8	97.3	89.1	88.6	98.3	95.4	90.7	89.8	97.2	88.6	**93.5**
通所	R6　実績	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	**99.9**
	R7　目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	**98.0**
	R7　実績	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	97.6	99.9	99.9	98.8	99.9	99.9	**99.6**
訪問介護（件数）	R6　実績	4,363	4,595	4,317	4,513	4,567	4,599	4,873	4,744	4,964	4,970	4,648	5,137	**4690.8**
	R7　目標	4,284	4,424	4,292	4,432	4,436	4,304	4,444	4,312	4,452	4,456	4,052	4,464	**4362.7**
	R7　実績	5,025	5,143	4,861	4,890	4,812	4,752	5,115	4,825	4,916	4,812	4,697	4,795	**4886.9**

2025年度　ふなばし翔裕園　事業報告

施設基本方針

Consider
～無理からの脱却、無理ではなくどうしたらできるのかをよく考える～

施設年度目標

①全事業高稼働を維持し、安定した経営体制づくり
②小学校・中学校・高校・特別支援学校・特定技能生の受け入れ（介護人財の育成）
③最先端の機器を導入し、業務効率を図る

重点項目に対する実績報告（各事業ごと）

【特養】　年間平均稼働率　94.51%　（目標97%　対目標比　－2.49%　対前年比　-1.38%）
要因　①持病の悪化や老衰での入院、ご逝去の一方で、予防可能な入院者も多く目標稼働未達成となった
　　②入院中の空床はショートステイと連携を図り、総稼働の維持（平均総稼働率96%）をおこなった
・今期は、26名（月平均2.1名）の入退所者が発生した。常に申込者、待機者確保に努め、タイムラグなく入居を進めるも、ご家族が就労中のため、契約～入居までのタイムラグが発生するケースも多かった
・施設広報誌やInstagramを経由しての見学者が年々増加しており、各月新規申込者は5～6名を獲得できている
【短期入所】　年間平均稼働率　109.1%　（目標100%以上　対目標比　+9.1%　対前年比　+5.2%）
要因　①今期は、新規問い合わせも多く、キャンセル待ちの確保にて特養の空床を最大限に活用した
　　②ロングショートステイ利用のお客様８名を、特養入居へと繋ぐことができた
・デイサービス、訪問介護を利用されているお客様の新規利用が継続的に実施ができており、キャンセル待ちの確保も行うことができた
・年度末、2月中旬頃からコロナウイルス感染症がショートステイ内で発生し、ロングショートのお客様２名が入院となってしまうも、初動対応等を迅速におこなうことで、稼働を大きく落とすことなく終息ができた
【訪問介護】　年間平均訪問回数　988回（目標 900回　対目標比　＋88回　対前年比　+247回）
要因　①サービス提供責任者を３名体制にし業務の見える化と業務分担を進め、新規依頼、契約、サービス調整、提供までタイムラグなく進めることができた
　　②全員人事での採用、特養夜勤専従との兼務により登録ヘルパー４名を採用することができた
・エリア拡充のポイントとなる登録ヘルパーの採用を進めることができ、船橋市を中心に、市川市、鎌ヶ谷市へとサービス提供エリアを広げ、着実に各月のサービス稼働件数目標を達成することができた
・ふなばし翔裕園として、地域の研修会や会合に毎月参加をすることで、「顔の見える関係づくり」を重視し地域関係者やケアマネと連絡や相談をしやすくし、連携を円滑にすすめ、新規獲得等に繋げることができた
【通所】　年間平均稼働率　95.2%（目標 95%　対目標比　＋0.2%　対前年比　-0.9%）
要因　①施設入居での終了者が相次ぐ一方で、新規獲得の他、振替利用やスポット利用を徹底しおこなった
　　②既存のお客様の長期利用と新規獲得にて、登録者を一定数維持することで、稼働の安定に努めた
・前年度より既存のお客様（ご利用より数年が経過するお客様）のADL低下に伴う転倒や入院、施設入居等で稼働が安定せず登録者も伸び悩む期間が長期化したが、第四四半期にて登録者目標及び稼働目標を達成することができた
・終了者18名に対し、新規獲得26名、登録者41名にて目標を達成することができた

【全体総括】
・訪問、通所、ショートにおいては、計画的な集客と安定した稼働の維持により、目標達成となりました。特養においては入院者の増加やご逝去が重なり目標未達成となりましたが、新規加算の積極的な取得やICT活用による生産性向上に注力しふなばし翔裕園全体として、収益、利益ともに目標を達成することができました。
・訪問介護については、既存職員の安定的な勤務と登録ヘルパーの雇用、サ責業務の削減により、市川市や鎌ヶ谷市へとエリアを拡大することができ、過去最多のサービス稼働件数を残すことができております。
・特養においては、既存のHugやリフトの活用と定着を徹底し、お客様および職員の心身負担の軽減に努めています。また、前年度に続きaamsを40台導入（合計70台）し、心身状態の把握や見守り業務の改善を推進。
・在宅事業においても、ケアプランデータ連携等による生産性向上への取り組みを進めております。
・令和7年度、新たに特定技能生2名を仲間に迎え、国際人財職員は計10名（うち特定技能生6名）の体制となりました。これまでのノウハウを活かしつつ、育成カリキュラムの立案やリーダー研修への参加等を進めました。
・地域活動では、障がい分野において、有償ボランティア活動の受け入れや野菜販売、近隣保育園児との交流、学生ボランティアや実習の受け入れ。そして高齢分野での地域活動の基盤構築をすることができました。

年間数値目標と実績（利用率）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6　実績	95.8	97.1	98.1	97.3	96.6	95.0	96.5	97.0	95.2	94.5	95.1	92.7	**95.9**
	R7　目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	**97.0**
	R7　実績	93.9	94.1	93.3	95.5	95.0	95.5	97.6	93.1	90.9	93.2	95.3	96.8	**94.5**
短期	R6　実績	109.3	103.9	108.0	105.5	107.4	106.7	101.0	102.0	89.4	104.2	103.2	106.1	**103.9**
	R7　目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	**100.0**
	R7　実績	117.0	110.0	109.3	105.5	111.9	112.3	98.7	103.7	104.2	123.9	106.1	100.6	**108.6**
訪問	R6　実績	615	621	611	634	706	678	726	748	812	886	908	947	**741.0**
	R7　目標	850	880	880	900	900	910	910	910	910	910	910	930	**900.0**
	R7　実績	912	935	944	1027	1009	1023	1053	976	1003	948	940	1090	**988.3**
つかだ	R6　実績	97.6	96.3	99.0	98.2	98.8	98.8	98.0	96.4	93.5	92.0	93.2	91.7	**96.1**
	R7　目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	**95.0**
	R7　実績	93.1	93.7	95.1	95.2	92.8	96.8	91.7	92.9	98.0	97.2	97.1	98.2	**95.2**

2025年度　香流川翔裕園　事業報告

施設基本方針

NEW　STORY
～新たな挑戦で、持続可能な未来へ～

施設年度目標

１．経営の黒字化
２．強い組織の形成
３．地域ナンバーワン施設になる

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】　年間平均稼働率　97.5%　（目標97.0%）
・入院者が増加しましたが、入院期間の長期化を防止できたことで稼働率の低下を防止することができました。感染症の発生もなく目標稼働率を達成することができましたが、新規入居の遅れにより空床が増加した月もありました。
・気候の良いシーズンには名城公園や熱田神宮等、地元で馴染みある名所へ外出いたしました。施設のイベントは学生や地域のボランティアの協力を得て開催し、地域交流を活発に行うことができました。
・業務内容や人員体制の見直しを随時行いました。他事業所とのクロスシフトを導入し、特に小規模多機能との兼務体制促進いたしました。（人員配置　令和7年4月　1.5：1　→　令和8年3月　1.85：1）
・他事業所からの応援・協力体制により、食事提供等の業務が集中する時間帯の時間外勤務を削減し、派遣職員もゼロ人となり、人件費を大幅に削減することができました。
【グループホーム】　年間平均稼働率　96.6%　（目標98.0%）
・転倒事故による骨折や体調が不安定なお客様の入退院が続いたことで入院空床が増加しました。また、退居後の新規入居の受け入れに時間を要するケースが複数回あり、目標稼働率を達成することができませんでした。外部からの新規獲得と小規模多機能からの入居を促進するための営業活動及び小規模多機能との連携を深め、稼働率の低下を防止してまいります。また、感染症の発生を防止することができましたが、体調が不安定なお客様のフォロー体制を強化するため、訪問医師や訪問看護との協力体制を強化してまいります。
・お客様のご要望や体力に合わせて外出アクティビティを実施いたしました。名古屋市内の観光名所だけでなく、岐阜県海津市の千代保稲荷のような少し遠出となる外出も企画し、お客様に楽しんでいただくことができました。
・季節の食材を使用した献立で調理を行いました。国際人材が故郷の料理を振舞う機会も作りました。
【小規模多機能】　年間平均稼働率　82.0%　（目標80.0%）
・年度当初は登録者数17名でしたが、3月には23名まで増加しました。8月以降は毎月20名以上の登録者を維持することができたため、目標稼働率を達成することができました。
・地域包括から訪問サービスを中心とした支援が必要なお客様を紹介していただくことが増え、訪問サービスの利用回数が300回を超えるようになったため、7月より訪問体制強化加算の算定開始いたしました。困難事例を積極的に受け入れ、特に認知症のお一人暮らしのお客様に対し、地域で安心して生活が継続できるよう支援いたしました。
・訪問サービスを中心に利用されるお客様が増えた一方で、入居待機でご利用されていたお客様が相次いで入居となった際に宿泊サービスの利用回数及び収入が減少しました。宿泊サービスの利用回数の減少を防ぎ、特養、グループホームの稼働率低下を防止するためにも、待機利用者を常時確保できるように営業活動を実施してまいります。
・お客様やご家族から要望の高い外出イベントや創作活動、ドリームプロジェクト等の個別アクティビティを実施し、通いサービスを楽しく利用していただけるよう工夫いたしました。
・定期的な社会参加の機会として、施設主催の認知症カフェにお客様に参加していただきました。介護美容のボランティア受け入れやマルシェ開催など、施設内外で地域の方との交流の場を設けるようにいたしました。
【全体総括】
　特養は目標稼働率を達成することができましたが、グループホームは入院や退居による空床が増加し目標稼働率未達となりました。入居については、日常的な健康観察や医療連携を強化しつつ、即時入居可能な待機者確保に努め、入院及び退居後空床を削減してまいります。小規模多機能については訪問サービス中心でのサービス提供体制を基本とし、登録者を毎月20名以上確保できるようになりました。地域包括が主催する事業に継続的に協力、参加していることで小規模多機能のサービスへの理解や施設との関係性が深まり、紹介件数が増加し、登録者の安定に繋がりました。また、人件費については全事業でクロスシフトを導入したことで、派遣費用や残業費用を大幅に削減することができました。
　組織体制については、役職者を含む職員の異動を施設全体で実施し、チーム力の向上に取り組みましたが、特に若い世代での離職が多い一年でした。生産性向上を推進し、働きやすい職場を追究することで離職を防止いたします。国際人材については受け入れ開始から1年が経過し、将来のリーダー候補の育成や離職防止等の課題が見えてきました。国際人材のさらなる成長を支援し、彼女たちの活躍と共に組織を強くしてまいります。
　地域においては、近隣のスターバックス店内での認知症カフェ定期開催が始まり、施設の外に新たなコミュニティを作ることができました。行政や近隣事業所からの関心も高く、施設の活動を地域で広く知っていただくきっかけになりました。
　令和7年度は小規模多機能の稼働向上と人件費の削減により収支を安定させることができました。経営のさらなる安定化をを図りつつ、施設の魅力を高めて地域へ発信し続けることで、引き続き地域ナンバーワン施設を目指してまいります。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R6　実績	96.7	94.8	99.0	97.7	96.3	100.0	96.9	100.0	98.7	97.6	100.0	100.0	**98.1**
	R7　目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	**97.0**
	R7　実績	98.2	99.7	95.7	93.4	94.7	96.7	98.7	98.0	100.0	96.1	98.4	100.0	**97.5**
GH	R6　実績	98.5	98.6	100.0	96.6	96.6	100.0	100.0	99.6	93.9	93.8	96.4	92.5	**97.2**
	R7　目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	**98.0**
	R7　実績	100.0	95.2	95.7	100.0	97.6	95.0	98.9	99.3	96.1	94.3	91.1	95.5	**96.6**
小多機	R6　実績	68.5	77.1	72.9	87.8	84.5	84.3	79.8	77.3	76.8	74.5	71.3	82.4	**78.1**
	R7　目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	**80.0**
	R7　実績	68.0	76.0	76.0	76.0	92.0	88.0	88.0	80.0	80.0	80.0	88.0	92.0	**82.0**